

所 属 鳥取県漁業協同組合（賀露支所）

氏 名 ひろさか ふゆじ
広 坂 冬 爾 （32 歳）

船 名 はくれん
白 蓮 4.9 トン

漁業種類 一本釣り、小型底びき網



～多くの出会いを活かし「偶然」を「好機」に～

「偶然を好機として捉えて次に繋げていくことが大事だと思うんです」と、両耳のピアスを光に反射させながら、爽やかな笑顔とともにそう語る広坂さんがこの世界に入ったのは、偶然、漁師である父に船に乗せてもらったことがきっかけだった。仕事や日々の生活の中で、偶然に起きた出来事を”ラッキー（幸運）だった”の一言で終わらせるのではなく、何か次の一手に繋げていきたいという意気込みを語る。

県内だけでなく他県の先輩漁業者とも積極的に交流を重ね、その中で得たヒントを活かして新たな挑戦もしている。ある時、交流している漁業者から偶然「神経締め」の情報を得て自ら漁獲した鯛に試し、それが関係者間に広まり結果的に鯛の単価を上げることに貢献できた。今後もこうした「偶然（好機）」を掴むために積極的に横の繋がりを拡げていきたいという。

大海原で陸上生活では味わえない大自然の摂理を肌で感じながら仕事ができるということが、何事にも積極的な彼の原動力となっているようだ。”

～船名に込めた思い～

父の船（白鯨）から「白」を受け継ぎ、船名には珍しい植物の「蓮」を当てた。ある時、太陽の光が海面に反射し蓮の花のような目映い輝きを目にしたこと。そして、泥の中から生まれても泥に染まらず、美しく水面に花を咲かせるから。それが「蓮」を選んだ理由だ。

（文責：大里 純）